

# 文部時報

昭和六十三年九月  
第一三四〇号

## 特集 国民文化祭

### ◇グラビア

目でみる国民文化祭

### ◇巻頭論文

エリートの文化と国民の文化

三浦 朱門 8

### ◇座談会

地域文化の振興と国民文化祭

12

(出席者)

倉橋 健/石井 歡

小林 武雄/(司会) 渡辺 通弘

### ◇エッセイ集

#### 「文化の振興」

27

米山 俊直/天谷 直弘/上山 春平/河北 倫明/和田 隆男

小池美代子/堯 律子/松枝 忠信/ドナルド・キーン

クロード・チアリ/長尾 裕隆/稲垣美穂子/ジェームス・三木

大島 渚/芳賀 徹/栗原 一登

### ◇解説

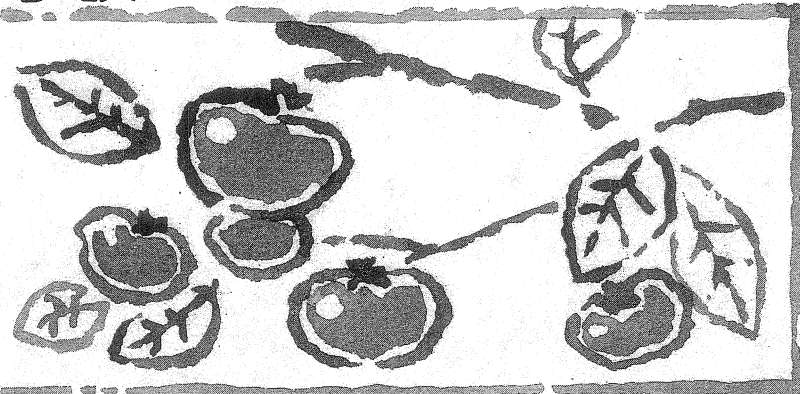
第三回国民文化祭ひょうご88の概要と特色

第三回国民文化祭兵庫県実行委員会 44

### ◇国民文化祭Q&A

文化庁国民文化祭担当官室 53

## 学校 地域社会



### ◇資料

1 来年は埼玉で開催

第四回国民文化祭さいたま89実施計画大綱案まとまる

埼玉県県民部国民文化祭推進室 55

2 架けよう—文化の橋・交流の橋

第五回国民文化祭・愛媛90

愛媛県生活文化局国民文化祭準備室 62

### ☆特別記事

よみがえった重要文化財「明治丸」

内海 博 91

### ○教育改革トピックス

高等学校教育の個性化等の推進に関する調査研究協力者会議が発足

初等中等教育局高等学校課 68

教員の週休二日制・学校週五日制に関する省内連絡会議を設置……教育助成局地方課

69

文教施設のインテリジェント化に関する調査研究協力者会議が発足

大臣官房文教施設部指導課 70

大学入試センター試験と入試改革

高等教育局大学課大学入試室 71

生涯学習の振興に関する研究協議が発足

生涯学習局生涯学習振興課 72

道徳教育用補助教材(副読本)に関する調査研究を開始

初等中等教育局小学校課・中学校課 73

### ●文部省のまど

基礎研究の推進を基調に地震・火山

### ●文化財紹介

噴火予知計画の推進を

### 重要文化財 明治丸

「婦人国際交流フェスティバル」の概要

### ●名作シリーズ

生涯学習局婦人教育課

国宝 虚空蔵菩薩像 一幅

昭和六三年度学校基本調査結果(速報)の概要

解説 中野 照男 67

大臣官房調査統計企画課

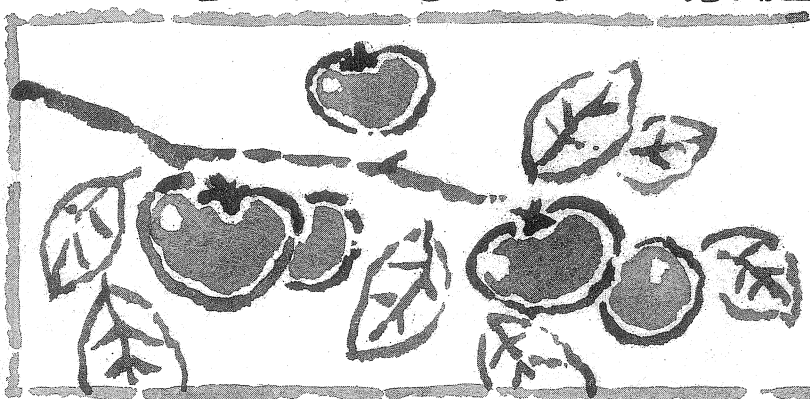
昭和六一年度学校教員統計調査結果の概要

大臣官房調査統計企画課 87

昭和六一年度学校教員統計調査結果の概要

表紙 太田 英一/カット 内部 敬生

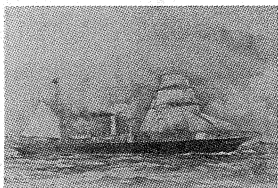
## 手をつなごう 家庭



☆特別記事

# よみがえった重要文化財「明治丸」

東京商船大学長 内海 博



明治丸航走の図（山高五郎画）

## 明治丸と海の記念日

去る二月、我が国では初の、しかも唯一つである船の重要文化財「明治丸」（昭和五三年指定）が、一二億余円の費用と八年余りの歳月をかけてその保存修復工事を完了した。そして、東京商船大学の構内に往時の優美な姿を取り戻した明治丸は、昭和六三年七月二〇日の「海の記念日」に文化庁長官をはじめとする関係者一同に披露されたのである。あいにくの梅雨空ではあったが、どうやら雨はさけられ、三〇〇名余りの大勢の方にご覧いただけたのは誠に幸いであった。

この明治丸の誕生は明治七年のことであって、明治九年には明治天皇が東北、北海道御巡幸の際に帰路青森から函館経由で横浜まで御座乗になられ、七月二〇日無事横浜に帰着さ

れた。時代は変わり昭和一六年、海国日本の啓蒙が叫ばれた。「海の記念日」の制定が検討されたが、これを記念するものとして、この日が選ばれたのである。

## 造船史上からみた明治丸

明治元年、維新政府による洋式灯台建設が開始された。それには、灯台位置の測量、資材の運搬、状況視察ならびに修理業務等に使用する船が必要となり、明治二年、鉄骨木造船を英国から購入し「燈明丸」と改名してこの業務に当たられた。これが我が国灯台監視船のはじまりと言われている。明治三年には仏国から鉄造外車船を購入したが、灯台寮付属船として本来の業務のほか、内外の頭官を新設灯台の落成式に招待するために使用したり、灯台業務の広報にも使用した記

録があり、その船内装備は豪華なものであったという。

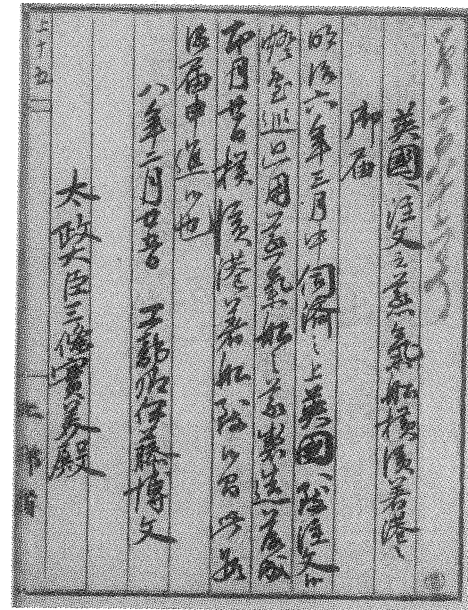
その後、灯台の数が増加するに従い、灯台業務船一隻ではその業務の遂行が困難になり、また古船では修繕費が高くなることから、新船を英国に発注することになった。しかし、当時は軍艦も商船も外国の古船を購入していた時だけに、大型優秀船を建造するに至った理由は単に業務量と経済性のみであったとは考えられない。時の工部卿伊藤博文は英国留学中に、英国船員として海運の勉強をしたと伝えられている。

こうした背景のもと、この新船発注の目的には、日本の海運発展のため、造船、造機ならびに船員教育の教材として利用しつつ、さらには内外頭官の乗船用あるいは皇室用ヨットとして使用することをも考慮に入れていたと思われる。このようにして、明治丸は明治六年英国グラスゴーのネピア造船所に発注され、翌七年に完成した。当時の船体は木造から鉄製に移った時代であった。以後に普及する平炉による製鋼法が発明されたのが明治の初期と言われているから鉄製の船体の時代はごく短かったと思われるが、明治丸の船体はこの鉄製である。この点でも造船史上貴重な資料と見ることが出来る。我が国で初めて建造された鋼製の商船は明治二三年頃と言われている。

またこの明治丸の推進装置は、最初の設計段階では外車蒸気船ということになっていたが、最終的には螺旋推進器（ス

クリュー）に変更された。その理由は明らかではないが、この頃は推進装置が外車から螺旋推進器に移りつつあった時代であり、このため新しい推進装置の採用にふみきったものと思われる。

明治八年二月二〇日、明治丸は回航要員五三名（内英国人四名、豪州人一名、比島人三八名）によって横浜着。当時の工部卿伊藤博文から太政大臣三条実美あて着港届が今でも東京商船大学資料館に保存されている。

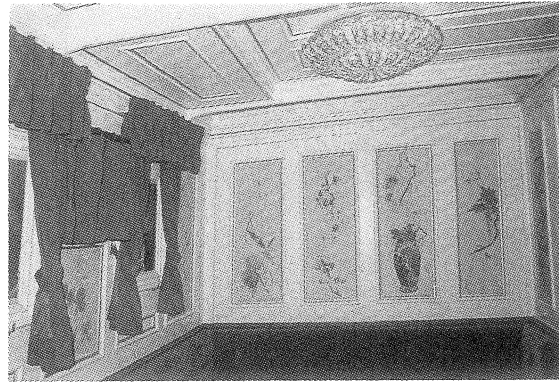


明治丸横浜着港の届書（原 議）

## 明治の歴史と明治丸

就役後の明治丸は、明治八年三月五日の軍艦「清輝」進水式に行幸された明治天皇が御乗船になられたのをはじめとして、当時の歴史に残る多くの事件にかかわっていた。

同年小笠原諸島の領有問題が生じ、十一月二二日、日本政府調査団を乗せて小笠原に急行した。そして英国軍艦より二



明治天皇御座所

日早く父島に着いて調査を進めることにより、小笠原諸島領有の基礎を固めることが出来たと言われている。

翌九年一月には日朝修好条約締結を促す示威行動を支援するため、日本艦船の基地であった対馬への石炭急送の任務についている。

そして同年七月、前述のように明治天

皇は東北、北海道御巡幸の際に御乗船になられた。

翌一〇年、西南の役勃発に際し、有栖川宮熾仁親王を勅使として鹿児島に派遣するため、明治丸は神戸港に待機していたが、既に鹿児島勢の先鋒が熊本県下に侵入したという電報が入り、勅使の派遣は中止となった。

政府は明治一二年、清国にも服属關係を続けていた琉球藩の強行併合に踏みきり、明治丸は中城王子を乗せて四月二七日那覇港を出港している。

次いで明治丸の記録が現われるのは、明治一五年朝鮮壬午事変である。同年八月、明治丸は政府代表を乗せ軍艦四隻を伴って、下関を出港し仁川に赴いた後、朝鮮国王からの修書謝罪特使一行を乗せて九月二八日、横浜港に帰着している。

その後明治二〇年には硫黄島探險航海に赴いている。調査の結果硫黄島は「殖民の目的なき無用の島地と断定せざるを得ず、一同失望した」と記録されている。

このように明治丸は「政府専有特別船」としての明治の歴史に残る足跡が多く、まさに現代日本の「政府専有特別機」の存在であったと想像される。

明治二〇年以後は、本来の業務である灯台巡視船としての活動を続け、あるいは灯台位置の測量に、あるいは建設資材の運搬に、または海底電線の敷設等に活躍している。そして明治二九年には、東北海岸及び西南海岸航路標識建造位置測

量、その他川崎、神奈川、本牧、北中根の各浮標交換等に従事し、現役を引退することとなる。

### 船員教育の場としての明治丸

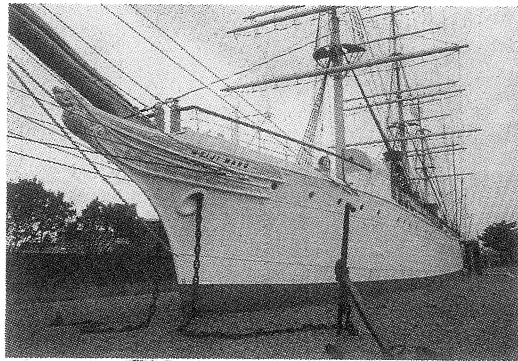
明治二十九年、この頃になると灯台の数も増え業務も膨張してきたので、明治丸は「積量少なく多数灯台の用品を運搬するに堪えず」という状態になった。通信省は海軍省から新発田丸（二七八三）を譲り受け、同年七月明治丸を商船学校係留練習船とすることにした。

話は変わるが明治八年、当時の内務卿大久保利通の海運樹立の意見書に端を発し、三菱会社に対する命令書によって三菱商船学校が東京・京橋の霊岸島に誕生した。設立の時から官学的私学校と言われていたという。これが現在の東京商船大学の誕生である。明治丸の誕生が明治七年であるから、奇しくも両者が百十余年の歴史を同じくしているわけである。明治一五年には、名実ともに官立となり、明治三五年東京・越中島の現在地に移転し、その後も所管や名称が二転三転しながら、今日に至っている。この間、前述のとおり明治丸は明治二十九年に校内係留練習船となり、昭和二〇年の終戦に至るまで約五〇年間の長きにわたって「海の児」をそだててきたのである。戦前は「東京高等商船学校」として船舶士官の養成そのものであったから、この明治丸は巣立った若人約八

団が駐屯することとなる。

明治丸の管理については、進駐軍に対し十分な要請も行われたようであるが、しかし明治丸の中甲板は丸窓の広いフロアーで格好のダンスフロアーとなる。御座所の壁画も、ニス仕上げの装飾材もすべてペンキで塗りつぶされ、進駐軍の娯楽場と化してしまった。

昭和二五年七月、米軍占領下の警察予備隊が発足し、校舎は引き続きその本部として使用されることになった。この



明治丸（船首から臨む）

頃から明治丸の船底部への浸水が一段と激しくなり、昭和二六年七月二四日、遂に沈座するところとなった。翌二七年、浮揚工事に成功したが、老齢に加えて長年の放置による傷あとは消えず、昭和二九年二月同船は正式に練習船の任を解かれた。

昭和三七年、本学

〇〇〇人の修練道場であり、シンボルでもあった。

学校に移管された後の明治丸の管理も大変だったようだ。まず、明治三五年霊岸島から越中島へ移動させる作業が行われている。隅田川の河口の浅瀬を浚渫したり、隅田川の往来が現在のように激しくなかったにしろ、約一〇〇〇トンの船を曳航し無事ポンドに到着させる作業には関係者の苦勞が偲ばれる。明治四四年七月二六日及び大正六年九月三〇日の二度の台風で錨鎖が切れ、大被害をうけている。大正一二年九月一日の関東大震災時には、明治丸と若干の施設を除いて壊滅（ほとんどが火災による）したにもかかわらず、明治丸が五十六〇〇名の避難者とともに無事安泰であったことは奇跡とも言えよう。昭和二〇年三月一日の東京大空襲時、越中島界わいで焼け残ったのは本学を含む極めて数少ない施設だけである。この時にも近隣の住民が難を避けて本学に逃げこんできたが、その数はさだかではない。明治丸はまたも安泰であった。

### 重要文化財の指定へ

昭和二〇年九月二〇日、進駐軍の命により明治丸を含む本学の施設は二四時間以内にあげ渡しということになり、関係者を動員して重要書類その他貴重な資料、実験器材等の搬出を行った。マッカーサー総司令官の親衛隊である第七騎兵師

の八五周年記念事業が進行中、たまたま東京都の高潮対策による防潮堤の建設を機に、明治丸を陸上に定着して記念船として永久保存する計画がたてられた。昭和三八年、陸上定着工事を完了すると同時に、翌年から少しずつ補修工事に着手してきた。

昭和五〇年、東京商船大学創立百周年記念事業の一環として明治丸永久保存について種々調査研究を行った。その結果、国の重要文化財として指定を受け、広く一般の方々にも御覧いただき、併せて海の記念日の由来と海国日本に対する理解を深めることが適当と判断された。かくして昭和五三年五月三十一日、明治丸は我が国で「船」として初めて、国の重要文化財に指定されたのである。

### おわりに

近年、我が国は経済的に大きな発展を遂げたが、その位置する地理的条件は昔と変わらず四面海に囲まれた島国であり、海への啓蒙と視野の拡大が今後一層望まれるところである。このような時に明治丸が重要文化財としての修復工事を完了し、この秋頃から多くの人々に公開されることは極めて有意義なことであろう。本学としてはこの貴重な文化財を後世のために末永く守り伝える責務があり、関係者各位の今後の御支援、御協力を切にお願いするものである。

